特報部 FAX 03(3595)6911 Eメール tokuho@chunichi.co.jp

江戸城天守 再建なるか

20年東京五輪で意気込むNPO

「日本のシンボル」として江戸城の天守閣を再建しよう―。二〇二〇年の東京五輪開催決定を機に、江戸城再興の機運が盛り上がっている。海外からの観光客誘致にもつなげたいという。予算面や法律面などハードルは高いが、果たして現実味は。（小倉貞俊）

開催地として象徴的建物を

「ロンドンのバッキンガム宮殿、北京の紫禁城にパリの凱旋門。五輪が開かれるような大都市には、シンボルとなる歴史的な建造物がある。東京にとってのそれこそ、江戸城の天守閣なんです」。こう力を込めるのは認定NPO法人「江戸城天守を再建する会」の小竹直隆理事長(六二)だ。

江戸城天守閣は、江戸時代初期に三度、建てられた。特に三代将軍徳川家光の一六三八（寛永十五）年に建築の「寛永度天守」は五層六階、石垣を含め高さ約六十㍍と国内最大級で、耐震強度も優れたものだったとされる。一六五七年の明暦の大火で焼失して以降、天守閣は経済的な理由から再建されなかった。現在は石垣の台座（天守台）だけが皇居東御苑に残る。

江戸時代初期の図面を基に作成された「寛永度天守」の復元図（江戸城天守を再建する会提供）

小竹氏は大手旅行会社役員などを務めた経験から「東京にも歴史的ランドマークが必要だ」と痛感し、二〇〇四年に同会を設立。江戸城再建に向けた署名集めや、江戸城ウオークなどのイベントを開催している。会員は三千二百人を数える。

一〇年秋には、城郭研究で有名な三浦正幸・広島大学院教授による、当時の図面を基にしたコンピューターグラフィックスの復元図も完成、壮麗な天守が再現された。

もちろん、再建には高いハードルがある。一つは巨額な費用だ。税金によらず主に寄付でまかなう予定。鉄筋コンクリートよりも耐用年数が長い総木造での再建を目指しており、より割高な四百億～五百億円に上る見込みだ。

加えて法律上の問題がある。建築基準法では木造建築は三階建てまでしか認められていないのだ。

そもそも皇居に建設することが可能なのか。同会が建設場所として考えている東御苑は「皇室用財産」で宮内庁の所管だ。同庁報道室は「実際に話が来ないと答えようがないが、前例がなく、相当慎重な検討が必要では」と話す。

天守閣再建のプランはこれまでも取り上げられたことはある。一二年三月、石原慎太郎知事が都議会で「基本的にはぜひやってみたい。好ましい」と答弁。同年十二月の都知事選に出馬した松沢成文元神奈川県知事は「外国人観光客の誘致」を狙い、寄付金による復元を公約に掲げた。

同会は現在、日本都市計画学会やシンクタンクに天守閣再建についての評価や経済効果の試算を依頼、結果は今秋にも出る予定だ。国会議員の議員連盟の設立についても働きかけている。

「江戸城を歩く」の著書がある作家黒田涼氏(五二)は「江戸のまちは今でいうリサイクル都市だった。木造で長持ちする天守を建てることで、江戸社会の精神性を思い起こしながら生活するとともに、海外に日本人の生き方をPRできるのでは」と期待する。

小竹氏はこう力を込めた。「国民のコンセンサスと政官財の協力があれば、実現は夢ではない。五輪の追い風を力にしながら、再建の意義を訴え続けていきたい」

多額費用、宮内庁許可…高いハードル

ニュースの追跡